

平成26年度第1回奈良県住生活推進委員会議事概要

日 時：平成26年10月8日（水）13：30～16：00

場 所：奈良県文化会館1階 第3会議室

出席者：今井委員長、三浦委員、寺川委員、室崎委員
事務局（まちづくり推進局住宅課課長 ほか）

概要

今年度進めてきた取り組みについて、次第2に基づき事務局より委員へ報告。報告案件を踏まえ、事務局より桜井市大福地域における課題、今後の具体的取り組みについて説明のうえ議論。

今後は本日の意見を踏まえ引き続き議論をして検討していくこととした。

委員からの主な意見は以下のとおり。

【議事】桜井市大福駅周辺地域における地域住生活のあり方検討

①ヒアリングを通じて把握した地域の課題等

- ・このプロジェクトのベースになっている重要なポイントはコミュニティの再生。地域の課題の解決に向けて、住民が主体性を発揮するプロセスのデザインを検討すること。
- ・周辺地域を開放していくには成功体験を重ねていくことが必要。
- ・今ある課題を解決するという柱と、新しい仕組み、ブランディング、医療、新たな世帯をどうつないでいくかということが重要。
- ・県と市で協議をすすめ、この地域での事業が桜井市及び周辺にも提示出来るプランとなるようなイメージを持つこと。

②「地域交通の確保」について

③「魅力溢れる歩道空間の演出」について

- ・バスターミナルを介護事業者と連携することで、自ずと利用者間の交流が生まれる。
- ・コミュニティバスの検討だけではなく、カーシェアリングや自転車の可能性もある。
- ・人が歩くイメージが道の計画に反映できるようにすること。

④「地域の住民が安心して暮らせる機能の整備」について

- ・今までのベースとなる暮らしに加え、新しいライフサイクルを示すことがまちのブランディング化や、アピールする仕組みとして大事。
- ・集会所を文化的な精神を高める空間として活用するための方法の検討が重要。
- ・福祉施設やグループホーム等居住系の施設があることで、いざとなれば住民が職員に頼ることが出来、漠然な不安の解消につながる。
- ・近距離で在宅介護サービスが受けられるような状況があれば魅力的な住環境になる。
- ・障害者就労支援の流れで、例えばカフェなどがあれば住民の昼食だけでも依存でき、住環境の魅力が増すと考える。